



友人の皆さん、

福者ルイジ・ヴァリアラの過越の百周年を祝う今、その生き方の模範と宣教への献身は、旅を続ける私たちを、前進するようにと励ましてくれます！ ルイジはサレジオ会神学生であった19歳のときすでに、コロンビア、アグア・デ・ディオスのハンセン病居留地の患者の間で働く宣教師となる恵みをキリスト者の扶け聖母マリアに願いました。家族と故郷を後にし、ルイジは自らをそのミッションに全面的にささげました。当時、居留地の環境は非常に貧しく、ハンセン病の犠牲となった人々が強いられた孤立のため、敵意に満ちていました。ルイジは、惜しみない献身を通して、修道召命のしるしが見られる病気の若い女性たちや、病気の人々の娘たちを指導するようになりました。それは当時、「実現不可能」なことでした。その後、ルイジは、イエス・マリアの御心修道女会を設立しました。福者ルイジ・ヴァリアラ、あなたの模範によって、献身と福音宣教への望みを新たにしよう、私たちが勇気づけられますように！

Sua. Eulalia Marin

■ イエス・マリアの御心修道女会
HHSSCC
総長 シスター・エウラリア・マリンR.

どうしたら 若者のうちに 困難に負けない回復力を養えるでしょうか？



新型コロナウイルスのパンデミック以来、若者の生活様式は**大きく変わりました**。隔離措置の導入、旅行の制限、学校やサレジオのオラトリオ、仲間と出会う場の閉鎖に、若者たちは直面しました。こういった制約は孤立を長引かせ、若者たちは、友人や先生、親戚、愛する人々と物理的に離れた状態に置かれました。これらの措置が長期にわたって続いたことで、**倦怠感、欲求不満、感染や人に感染させることへの不安感**が増幅されました。このことは、若者たちの心理に大きな影響を与え、不安に起因する不調を増幅させ、落ち着いた人格形成を阻害しています。しかし、その影響は一様ではありません：置かれた状況に大きな影響を受けてしまった若者もいれば、逆境を前にしても建設的に応える回復力を見せた若者もありました。若者が持つ内面的な力を**目覚めさせ、発動させ**なければなりません。困難に負けない回復力とは、特別に厳しい状況にあっても、十分な適応を達成する力にほかなりません。

私たちは教育者として、「困難に負けない回復力」を促進し、サレジオの事業所に集う、あるいはその地域に暮らす、最も弱い立場に置かれている若者たち、特に移住の苦しみをも身をもって体験している若者たちを守るよう、呼ばれています。困難に負けない回復力は、個々の人の性格に備わる特質ですが、教育的同伴や特化したプログラムを通して、**自信をつけること、対処能力を伸ばすこと**を通して、身につけたり、成長させたりすることが可能です。

すべての教育者とサレジオ会員は、選択を行う力、自己決定、自己制御の力を若者たちのうちに養うプロジェクトや活動を発展させるよう呼びかけられています。特に、**社会性や人間関係を築くスキル**を育てるものが望まれます。つまり、日々のストレスをもたらす出来事に対処する方法を増やし、子どもたちが感情を調整するスキルを身につけるようにすることです。子どもたちは、適応の方策、社会的な支えのさまざまな形を導入することを学びます。それは、生じている心理的な不調を防ぐ働きとなります。

このことは、負の出来事に対処するために、内的、外的な力・手段を備えているとき、可能になります。それは精神衛生に大きく貢献し、その結果、**危険な行動**（いじめ、攻撃性、飲酒、学業不振など）を**予防したり、乗り越えたり**することができるようになり、「積極的社会性」のある行動（秩序ある、助け合う行動、すべての人を受け入れる姿勢、進んで人のために行動することなど）が促進されるのです。

■ マシュー・オルソラ・アキンイエミ, SDB
心理学者、心理療法士として研鑽中

振り返りと 分かち合いのために

- 関わっている若者たちの弱さを最も感じるの、どのような場面だろうか？
- 困難に負けない回復力を養うために、どうすれば若者を助けられるだろうか？



40年余りの恵みの年月：マダガスカル・サレジオ会



ジョゼ・ガストン神父様、多くのサレジオ会員がマダガスカルで働いてきました。マダガスカルから宣教師として派遣された会員はいますか？ 宣教師となった会員は、どこで働いていますか？

私たちは、本島におけるサレジオ会40周年を祝っています：最初のサレジオ会宣教師たちは、1981年2月にマダガスカルに到着しました。40年に及ぶ恵みの年月の間、マダガスカルの人々は、ドン・ボスコを、その霊性と、マダガスカル若者たちがとても感謝しているドン・ボスコの教育法を知ることができました。今日、マダガスカルには150人以上のサレジオ会員がおり、地元の召命は増えています。

わが準管区は、宣教促進に大きく力を入れています。その結果、7名のマダガスカル人会員が、宣教するためにさまざまな国へ派遣されています。カンボジア、ザンビア、ベネズエラ、スリランカ、シリア、アルバニア、中東です。現在も、宣教地へ派遣される召命を感じている会員がいます。教会に仕えるため、特に、世界の最も貧しい若者のために。

マダガスカルでは、宣教促進として何が行われていますか？ 宣教グループが関わっていますか？

私たちは二つの領域で宣教促進を行っています。サレジオ会修道共同体と、マダガスカル・サレジオ青年運動 (MSJM) です。サレジオ会の各修道院では、会員の宣教意識を高めるため、毎月、「カリエロ11」を読んで分かち合いをしています。養成支部では、さらに宣教促進を心がけています。若い会員の宣教への召命を再活性化させるためです。私たちのサレジオ青年運動の中には、サレジオ宣教ボランティア活動 (VOSAMI) があります。これは、宣教師となる召命を感じている若者に、宣教の体験を提供するものです。この宣教ボランティア活動は、若者の霊性を分かち合うことを通して、マダガスカル各地の教区、特にサレジオ会がまだ存在していないところ、ドン・ボスコのカリスマをもたらしています。

マダガスカル準管区にとって、今、宣教における最も大きな挑戦は何ですか？

マダガスカルでキリスト教が信仰されるようになってから150年以上、たっています。しかしマダガスカルは、いまだに宣教地です。福音はさまざまな領域で、まだ十分に受け入れられていません。多くの人が固執する習慣や伝統が支配的であるためです。私たちのもとは勇氣ある、熱意あふれる若者がいますが、貧しさは、若者たちの夢の実現を阻む障害になっています。サレジオ会生活のこの宣教の次元を深めるよう、終生誓願を立てた会員にも勧めなければなりません。



ジョゼ＝ガストン・ハリソア・ラコンドラナイヴォ, SDB

マダガスカルのアントシラベ教区出身。家の近所にラサレット宣教会があり、マリスト会の学校で学んだ。1996年にサレジオ会と出会う。青少年司牧の学位を取得（教皇庁立サレジオ大学、2014）。現在、青少年司牧と宣教促進、両部門の管区担当者を務める。

向精神薬と 若者たち



若者の間の流行により、向精神薬の「娯楽」目的での危険な乱用が広がっています。

向精神薬の使用：増加傾向が続いています
- この5年間に15から20%増。

向精神薬は多くの若者にとり、学業成績の向上、集中力の改善；食事療法の薬と合わせて服用することにより身体的外観をよくすること；自尊心の向上、健康な感覚、睡眠と気分の改善を約束するものとなっています。

出典：www.ilsole24ore.com

5月 サレジオ 宣教の 祈りの意向

教会の諸運動のために

マダガスカル・サレジオ事業所に集う若者のグループが成長するように。

教会の諸運動・諸共同体が、世界の必要に仕えるため各々のカリスマを用いながら、日々、福音宣教の使命を再発見するように、祈りましょう。 | 教皇フランシスコの祈りの意向 |

マダガスカルのために

